

「匠の技術を次世代に伝えたい」 ——アナログ技術に特化したNPOが誕生

日立製作所を退職したアナログ回路技術者が中心になり、2003年5月1日に特定非営利活動法人(NPO)「アナログ技術ネットワーク(ATN)」を設立し



堀江昇氏
現在、日本サーボで取締役社長を務める傍ら、アナログ技術ネットワークの理事長を兼務する。かつては、日立製作所でアナログ・デジタル混在回路設計などに携わっていた。

た*⁹⁾。会員には、映像や音声、高周波に関するアナログ技術の「プロ」が名を連ねる。ATNの理事長を務める堀江昇氏に設立の目的などを聞いた。

——アナログ技術を対象にしたNPO(ATN)を設立した目的は何か。

堀江 かつて日本はアナログ技術が強く、この技術を基にした民生機器が世界を席巻した。当時は、優秀なアナログ技術者がたくさんいた。しかし、当時のアナログ技術者は年齢を重ね、今では退職してしまった人も多い。退職

*⁹⁾ アナログ技術ネットワークの詳細は以下のホームページを参照されたい。<http://www.analog-technology.com/>

してしまえば、どこへ行ったか分からなくなる。ノウハウを次の世代に伝えられないまま、墓場に持って行って欲しくない。「匠」の技術を次世代に伝えて欲しい。このため優秀なアナログ技術者をつなぎ止める仕組みが必要だと考えた。それが設立した目的だ。

——具体的な活動内容は。

堀江 次世代のアナログ技術者を育てる活動が中心になる。基礎講座やセミナーを開いたり、アナログ回路設計を支援する人材を派遣したり、といった活動を行う予定である。

こうしたサービスは、企業などから要請があれば提供する。ATNの会員

に登録していなくてもサービスを受けられることは可能だ。しかし会員になっていけば、優先的にサービスを受けられる。——現役を離れた技術者が中心だと、最先端の技術についていけない心配はないのか。

堀江 当然、その心配はある。しかしわれわれにも、化石にはなりたくないという思いがある。このためATNの中で定期的に勉強会を開催する予定である。最先端の半導体技術を研究する大学の先生などを招く予定だ。

——なぜNPOなのか。それぞれの技術者がフリーで活動するという選択肢もあったはずだが。

堀江 企業などが仕事を要請する際に、個人が相手だと依頼しづらいことが多い。法人として登録しておけば、依頼しやすくなる。さらにNPOであれば、公共団体の支援を受けやすい*¹⁰⁾。有益法人にしてしまうと、こうした支援を受けづらくなるだけでなく、アナログ技術者の活動を拘束してしまう恐れがある。

——なぜ日本サーボ*の社長が、NPOの理事長を兼務しているのか。

堀江 現役の社長が兼務していれば、NPOの活動に対する信頼性を高められると考えたからだ。NPOではこうした例は少なくない。(聞き手：福田 昭)

*¹⁰⁾ アナログ技術ネットワークは、群馬県で特定非営利活動法人(NPO)として設立された。群馬県では、アナログ技術に特化した産業振興策に取り組んでおり、NPOに対する支援も行う計画だ。詳細は、本誌2003年5月号、p.21を参照。産業振興策に関するホームページもある。<http://www.pref.gunma.jp/g/01/seiun/index.htm>

【日本サーボ】Japan Servo Co.,Ltd. 小型モーターの開発/製造に取り組む企業。ホームページは<http://www.japanservo.jp/>